

新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

あけましておめでとうございます。



イギリスのEU離脱、まさかの人がフィリピンついでアメリカの大統領に就任、タイの前国王逝去など、驚きの国際ニュースがかけめぐった2016年が終わり、新しい年が明けました。昨年は私個人にとっても、9月初めの理事長就任の前後に、別々の用事で4回もインドネシアへ出張、講演や研究報告が計6回、約300ページの著書の執筆など、たいへん忙しい一年でした。(『インドネシアの基礎知識』という題の著書は、近々出版社「めこん」から刊行されます)。

多忙の合間の10月下旬、奥武蔵のあまり有名ではない山へひとりで登りに出かけました。快晴の月曜日で、山頂まで数人の見る

からに山慣れたハイカーたちに出会っただけで、静かな秋の山を堪能しました。下りのルートはさらに静かで、一人の登山者とすれ違っただけでした。木の枝を杖のかわりに登ってきたその人はやはり単独行の女性で、挨拶を交わしながらお顔を見たらなんと白人の方でした。

2週間後の11月上旬、今度はこれも静かな奥多摩の山へ出かけました。下山後駅までバスに乗ったら、滝の名所がある途中のバス停で青年男女の5人組が乗り込んできました。最初は日本人と見たが耳を澄ませて彼らの会話を聞いたらなんとインドネシア語でした。インターネット情報のおかげでしょう、日本の隅々まで外国の方が来訪されるご時世です。アジ風の役割もますます重要になります。今年も元気でがんばりましょう。

実り多い秋の東西 I メイト交流会

留学生と日本人会員が同数参加の交流会

11月5日は「秋」の交流会としてどうにか成立しました。2016年は夏から冬へ一足飛びに気候が変化しましたのに、当日は秋日和でした。参加者は、留学生と日本人会員がそれぞれ28名。そのためか、いつもより若々しい雰囲気が溢れました。



まずは東京江戸博物館内を3時間かけて見学し、「すばらしい展示だった」と留学生たちは東京の今昔を体感したようです。

その後、錦糸町駅前の墨田区公民館へ場所を移し、夕食を摂りながら親睦会を楽しみました。留学生は大学ごとに前に出て、大きな声で、スマホの画面を覗きながら歌を披露。日本人会員の大半は、手元の紙コピーを見ながら「紅葉」を輪唱しました。

場が和やかになってから、グループディスカッションです。テーマは「Iメイト交流の通信手段」について。Iメイト交流の豊富な古畑仁一さんから、準備された通信手段一覧表をみながら、「アジ風のIメイト交流では、E-mailが通信手段だが、これでいいかどうか」と、今われわれが直面している問題についてプレゼンテーションがありました。



〈交流のツールはいろいろです〉

7つのグループに分かれて、交流の実態を報告しました。E-mail中心のペア、各種SNSを駆使しているペア、用途に応じて使い分けているペア。総じて会員はE-mailでの交流を優先したい、学生はFacebookやLINEなどSNSの簡便な方法を好んでいる傾向が見られました。両方にとってどういう折り合いがよいのか、これからは試行錯誤が続くでしょう。

清華大学コーディネーター伊藤春雄さんのまとめを紹介します。「E-mailは意思や考えを深く伝えるため日本語添削を行うのに必要。一方SNS使用は時代の流れであり、若い人にとっては簡便に発信できるツール。一方を排除することなく両立を目指したらどうか。日本人会員にはアジ風で研修する場を設けるのもよい」。

晩秋の神戸探訪は祈りと再発見

11月26日、気持ちの良い青空の下、秋の西日本地区Iメイト交流会が開催され、留学生14名、日本人会員13名が参加した。午前中は神戸外国人旧居留地を探訪。街歩きテーマは「神戸の震災からの復興と神戸の街づくりの歩み」。

神戸市役所の24階に昇り神戸の街と大阪湾を一望したのち、市役所南側の東遊園地に設置されている「慰霊と復興のモニュメント・1. 17希望の灯り」の前で震災犠牲者に黙祷を捧げた。その後、震災で破壊された明治初期の洋風建物「旧居留地十五番館」が免震構造となって元の美しい姿を取り戻していること、昭和初期に建てられたビルが外壁を残したまま内側は近代的な高層ビルに改装されていることなど、様々な復興の姿を見学した。

神戸は2017年に開港150年を迎える。参加者は、港に隣接する外国人居留地を散策して、現在のレトロモダンな街づくりや開放的な街の雰囲気のルーツが、当時最先端の居留地の都市計画と都市運営にあったことを確かめた。

昼食時には、留学生が自己紹介を兼ね「日本に来て驚いたこと」を発表した。日本人の学生と親しくなりたくてもなかなか打ち解けないが、飲み会では人が変わったように話をするなどと、日本人には耳の痛い発言もあり、率直で和やかな雰囲気の食事となった。午後は、新神戸駅近くにある竹中



〈木組みの美しさに感嘆〉

大工道具館を訪問した。奈良の唐招提寺の柱と屋根の実物大の模型に、古代の日本の伝統建築技術の奥深さを感じ、木組のパズルを楽しみ、茶室の障子の繊細な細工に感嘆した。

海岸通りから山の手まで、晩秋の神戸を楽しみつつ互いに交流を深めた一日となった。

特集 「異文化交流会 — 簡単な日本料理をつくる」



〈当日のプログラム〉

11月5日、YS市庭コミュニティー財団の助成金を得て、館野由利さんを講師に「簡単な日本料理を作る」料理講習会を開きました。参加者は留学生27名と日本人会員15名。

同財団の評議員でアジ風顧問の新井雅夫さんからご挨拶があり、過去2回の「和食」に関する交流会のことや、日本の食文化の例として「いただきます、ごちそうさま」という言葉の意味などを話してくださいました。

2013年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された和食とは、「自然を尊重する日本人の精神を体現した社会的習慣」であるとの深い意味と、和食の4つの特徴①新鮮な食材を尊重②健康的な食生活③自然や季節の表現④年中行事との密接な関わり、を館野講師からお聞きました。

その後、当日の食材と料理の手順のご説明があり、7つのグループに分かれて実習に入りました。各グループに日本人会員が入って、手際よく調理をし、次々と料理が出来上がっていきました。最後は試食会。自分たちで作った料理は格別の味のように、皆さん残さず食べてしまい、「ごちそうさま」というあいさつをして食事を終わりました。

(理事 奥山 寿子)

Iメイトのホームステイ

貿易大学Iメイトのリン・チーさんが東京での交流会に参加することになりました。2016年9月に来日して大阪の大学に留学中



です。すでに電車の乗り方を覚えて京都などへ行ったそうです。今回は長距離旅行なので、不安のないようにと思って交流会前日に1泊してもらうことにしました。あらかじめ食べられないものがないか聞いたところ、何でも大丈夫、いつもと同じものを作ってほしいという返事だったので、肉じゃがを中心にしたメニューを考えました。

交流会前日の夕方、携帯メールで連絡を取りあって、最寄り駅のホームで無事に会うことが出来ました。夕食をはさんでの話題は、来日当初に大阪弁が日本語に聞こえなかったこと、ベトナムの結婚観、日本の宗教などで、夜遅くまで話し込みました。

当日の「簡単な日本料理を作る」では肉じゃがの再登場。代表的な家庭料理という印象を持ってもらえたようです。最後に夜行バスの出発までに時間があるチーさんと、同じく貿易大学Iメイト留学生で関西から参加のファム・ティ・ホアイさんも一緒に、行ってみたいと言っていた渋谷のスクランブル交差点に案内しました。とても感激した様子でうれしかったです。

ホームステイの受け入れは初めてですが、Iメイト交流が深まる良い機会でした。

(正会員 谷口 由紀子)



留学生と共に日本料理を作って

異文化交流会のテーマは和食で、留学生には「味」慣れないものかも知れませんが、実際に作って味わうという、日本の食文化を知ってもらう良い機会に恵まれたと思います。



〈留学生に囲まれて、中央が筆者〉

最初に講師の館野由利さんから日本料理と今日の献立について説明がありました。実習はまず肉じゃがから始まり、材料を「煮る順番」と「味付け」にコツがあるようで、学生もいざ作るとなるとレシピとにらめっこしながら真剣に取り組んでいま

した。焼き魚、おにぎり、味噌汁と慣れない中にも楽しそうに作り終え、いよいよ食事の時間です。皆自分の握ったおにぎりを頬張りながら、「肉じゃがが美味しい」と御代りをしていました。

食後の語りでは、国に帰ったら家族に作ってあげたいという男子学生もいて、楽しい一時を過ごしました。

今回の企画では顧問の新井雅夫さん、講師の館野さんには大変お世話になり、感謝です。

(正会員 奥谷 龍夫)

手のひらの実感

料理会では、順番によって肉じゃが、おにぎり、豆腐の味噌汁と焼き魚を作ってみた。いつも作るのは大変だろうと思った料理が、自分の手でだんだんできていく過程は、面白いだけでなく、満足感もたっぷりある。特におにぎりを作るとき、手のひらでお米を何度も握り繰り返すことができるから、美味しいものを今作っているという実感が一番だ。出来あがった料理は見た目も味も素晴らしかった。



(Iメイト留学生 鄭 湘〈清華大学→東北大学〉)

西日本地区Iメイト交流会に参加して

神戸でのIメイト学生との再会



〈左側がトゥさん 右側がキャットさん〉マサート大学のキャット(ナッタワディー・ティラバンヤートン)さん、9月から九州大学で日本語・日本文化を学んでいる。夜行バスで福岡から来て疲れて

2016年2月タイでの三国交流会で会った二人のIメイトと神戸で再会するため、11月26日早朝の新幹線で東京から交流会が開かれる神戸に向かった。

Iメイト交流2年になるタ

いる筈なのに元気に参加していた。もう一人は交流1年のハノイ貿易大学のトゥ(ファム・ティ・トゥ)さん、4月から地元の神戸大学で経済学を勉強している。

事務局が計画した神戸の歴史と震災からの復興を学ぶ市内の散策は好天の下で行われた。散策しながらの会話では、彼女たちの普段の暮らしぶりや留学後の夢などを話してくれた。

夢は必ずしも叶うものではないが、留学経験を生かしその夢に向かって進んで行ってほしいと願っている。何かと多忙な彼女たちに負担を掛けぬようLINE等での交流を今後も続け、二人の成長を応援して行きたい。

(正会員 坂東 敏弘)



ベトナム招待旅行

マイちゃん（レ・マイ・フォンさん）とのIメイト交流は2008年からです。アジ風の先陣を切ってSkypeを使つての日本語個人授業が始まりました。僕がWordで編集した日本昔話をマイちゃんが暗誦し、発音や理解が変だと思われるところを赤字で塗ります。送信されたページを見てマイちゃんが質問し読み直します。そんなことの繰り返しでしたがへこたれず頑張つて、メキメキ上達しました。



貿易大学卒業後一橋大学の修士コースの2年間は最初の3か月は我が家から通い、その後は毎週末寮から戻つて来ました。修士論文も一緒に勉強させてもらいました。

ハノイに戻つて国際交流協会に就職したマイちゃんは、妹と弟の塾代を負担しながら給料を貯め、「パパ、ママにちょっとだけ恩返しするの」と、11日間も休暇を取つて我々夫婦を招待してくれました。固辞したのですが、どうしても飛行機代はじめ何もかも負担してくれました。フーコック島やハロン湾の自然もハノイの史跡も良かったけれど、マイちゃんの家での6日間のホームスティが何より楽しかったです。

マイちゃんのお母様の勤められる公立小学校も参観させていただきました。二年生の英語の授業は全て英語で行われるのですが、新しく勉強した構文を使つて、先生と生徒、生徒と生徒がどんどん話を組み立てて行きます。校長先生も「世界に通用する人材の育成には英語教育開始時期に早過ぎるということはありません」ときっぱりとお話し下さいました。

その日の午後マイちゃんは病院に行くことになり、中学三年生になるマイちゃんの弟のインちゃんがベトナム最初の大学である文廟を案内してくれました。定期試験中で翌日も化学と物理の試験があるのに、「ちゃんと勉強できてるから今日別に準備しなくても大丈夫だよ」と小学校から鍛えた立派な英語でガイドをしてくれました。一日何時間くらい勉強するのと聞いたところ、「学校で8時間、塾で4時間、家で2時間だから、14時間くらいかな？」と平気な顔で答えました。

(正会員 園田 成和)

チャンさんの結婚式に参列して

貿易大学生だった元Iメイトのホアン・ゴック・チャンさんから10月に結婚しますと打ち明けられたのは2016年7月のこと。驚きましたが夫婦でベトナムでの結婚式に参列することにしました。



〈少女も一緒に祝福〉

10月8日の結婚式はハノイ近郊の彼女の実家で行われ、チャンさんの清楚な花嫁姿がとても美しかったです！披露宴には近所の人も大勢押し寄せ四百人を超す盛大な祝宴になりました。チャンさんのご家族や親戚とは初めてお会いしましたが、まるで旧知の仲のような温かい親しみを感じました。

その晩、チャンさん夫妻がお別れにホテルに訪ねてきてくれました。ご主人のトーさんが仕事で渡米するため、当分は離れ離れの生活になりますとのことでした。でも、お互いを信頼し合っている二人の笑顔は素敵でした！

私たちは2016年4月の熊本地震で被災しましたが、今回のチャンさんの結婚式に参列し元気を戴いて帰国しました。

チャンさん夫妻が再び合流し、アメリカの新天地で温かい家庭を築ける日が早く来ることを心から願っています。

(正会員 荒木 春洋)



アジ風奨学金受給生、第一志望の受験に合格

53号で紹介した清華大学卒業生の王鶴さんは、2016年10月から研究生として一橋大学の商学研究科に通学していましたが、このたび、同大大学院の修士課程に合格しました。

研究テーマは「中国における日系自動車企業の展開と課題～アフターサービスを中心に～」。将来は自動車産業に関するマネジメントまたはコンサルティングの経験を積み、日本と母国の貿易に架ける一本の橋になって貢献したいと意気込んでいます。

(理事 上 高子)

会員紹介

鈴鹿 博久さん

家族ぐるみでおもてなし

四国・高松市在住の鈴鹿博久さんは、1970年生まれの現役サラリーマン。カメラを愛し、その素晴らしい写真をFacebookに頻繁に掲載している。そこによく登場するのが、「うどん県」香川を訪問した多くの留学生の姿。奥さん、娘さんと一緒に地元を案内し、食事をしている皆さんの笑顔は輝いている。



30歳の時、初めてベトナムを訪問、ホーチミンの街に溢れる喧騒、熱気に「頭を鈍器で殴られたような気分」を味わい、その旅をきっかけにカメラ持参でアジア10か国を廻ってきた。でも街角や観光地を歩き回っても、「アジアとはなにか」が分からない。そんな時、日経新聞で見たアジ風の記事。「これだ！足りなかつたのは、人との交流だ」。

すぐさま入会し、東京の交流会に飛び込み参加した。以来、Iメイト交流を重ね、関西での交流会にはほとんど参加、東京にも年数回参加して、Iメイト（現在、中国2人、ベトナム3人、タイ1人）だけでなく、その友人の留学生とも友好の輪を広げてきた。そんな留学生が鈴鹿さん目指して高松にまで足を運んでくる。2016年夏、親しくなった元留学生に招かれ、家族でハノイを訪問、貿易大学も訪れた。アジ風が主催する大学訪問には「仕事があるので、まだ参加できない」と残念そう。

「私の家族、特に娘が外国、アジアの人を肌で感じてほしい。日本とアジアの関係は今後、より深くなる。娘が大人になった時、幼い時に感じた感覚を生かしてアジアの国々としっかりと渡り合えるようになってほしい」というのが、鈴鹿さんの願い。鈴鹿家を訪れる留学生にも、「日本の家族の実像を知り、日本への理解を深めてほしい」と期待する。「今ではアジ風の活動なくして、私の生活なし」とまで言い切る熱意に、取材する私の方が感動しました。

(インタビュー：田仲 和彦)



かんじ
伊藤莞爾さんは2016年7月に入会し、初めてIメイト交流に参加した方です。当初は原稿を書けるかと不安がっておりましたが、快くお引き受け頂きました。石井和徳さんは2人のIメイト学生と3人で交流しています。新しい交流方法にチャレンジする姿に感心しました。

(清華大学Iメイト交流コーディネーター 伊藤 春雄)



伊藤 莞爾さんと姚 順雨さんのメール

姚さん→伊藤さん 2016年10月24日



では、私もまず自己紹介をさせていただきます。中国中部の湖北省の武漢市で生まれて、今は北京の清華大学で日本語を専攻しております。私は二年生になったばかりで、日本語を勉強してもう一年になりましたが、日本語はまだ上手ではありません。そのため、このメールとそれからのメールの中にきっといろんなミスがあるかもしれないと思います。

(´；ω；`)ウッ…でも、精一杯頑張りますので、どうぞ厳しくご指導ください。今年の春、日本に参ったことがあります。関西の大阪と神戸と京都、関東の東京、それから東北の岩手県に参りました。来年は東京で交換留学するつもりですから、日本のほかの部分ぜひ回ります。

伊藤さん→姚さん 2016年10月25日

日本は、中国に比べると小さな島国ですが、周りを海に囲まれていること、大きな平野はありませんが起伏に富んだ国土なので、関西や東京だけでなく、各地に見どころや美味しい食べ物がいっぱいあります。来年、交換留学生で来られるのなら、事前情報として、色々お教えしますね。京都でも感じられたでしょうけど、日本文化の源流は中華文明です。言葉一つをとってもそうですからね。その中華文明が日本でどのように変化していったのか? という視点でもご覧になってください。

姚さん→伊藤さん 2016年11月14日

授業で茶道の話、いろいろ伺いました。日本人も烏龍茶とか英国流の紅茶を楽しむのは多いですね。それは国にかかわらず、世界中でも同じらしいですね。うちの大学の近くにそんなによくて静かな茶館があります?それはどこですか。ちょっと教えていただけませんか。ぜひ一度見に行きたいですね、伊藤さんが楽しんだところ(笑)。



私、先週故郷に帰って、もう北京に戻りました。実は、その5日間はうちの大学を代表して、武漢に活動参加のために参りました。でも、家族や友人もお会いができて、いろんな思い出話をして、まるでゴールデンウィークみたいですね。そして、いい気分転換になって、本当に楽しかったです。

石井 和徳さんと王 日澤さんと陶 宇心さんのメール

これまでの王さんとの交流と共に、2016年10月から陶さんとの交流を始めた。最近では三人でメール交流を行っている。

石井さん→陶さん 2016年11月19日



王さん(日本名みかさん)とも相談したのですが、陶さんと王さんと私の三人で日本語でのメール交流をすれば、より幅広い交流ができるのではないかと思います。王さんにも賛同してもらっています。陶さんのご意見をお聞かせください。

陶さん→石井さん 2016年11月19日

先週、WeChatでみか先輩に連絡を取りました。もし三人でメール交流すれば本当に良いと思います。



王さん→石井さん 2016年11月20日

後輩のことについてですが、こちらは陶さん(日本名ゆいさん)とWeChatで連絡を取りました。私たち三人は本当に縁がある三人組だと思います。ヽ(*´▽´)ノ

〈王日澤さん〉

石井さん→王さん、陶さん 2016年11月27日

みかさんが日本で経験した良いこと、悪いことをゆいさんにお伝えすることも、ゆいさんが今後留学するにあたって、きっと参考になるでしょう。ひとつのテーマについてお互いに意見を述べ合うことも、人生経験が違う三人にとって、考え方を深めるのに参考になると思います。

陶さん→石井さん、王さん 2016年12月2日

この間、三年生の交換留学の政策が出ていて、今日は自己志望を提出する日になりました。この間、どの学校を選ぶか、どこに行きたいか、ずっと考えていました。申し込んだ結果はしばらく出ないと思いますが、もしできたら、その時、石井さんからもみかさんからいろいろな経験やアドバイスを教えてくださるようお願いいたします。

〈陶宇心さん〉

王さん→石井さん、陶さん、2016年12月4日

こんばんは。ようやく三人の交流が始まり、楽しみにお二人のメールを読みました。ゆいちゃんは申請を申し込んだあと、面接などがありますね。もし何かお聞きしたいことがあれば、ぜひ遠慮なくこの二人にお知らせください。(笑)できる限りお手伝いしたいのです。

今後の主な行事予定

*詳細はHP・メールでお知らせします。

2017年2月11日(土) 10:30 ~
新春交流会 (於: 昭和女子大学)

— 留学生によるプレゼンテーション —

2017年2月12日(日) 10:30 ~
世田谷区助成金事業 (於: 昭和女子大学)

— アジ風と世田谷区民の交流会 —

(留学生によるプレゼンテーション)

2017年4月ごろ

春のIメイト交流会

2017年6月ごろ

西日本地区Iメイト交流会

編集後記

明けましておめでとうございます。

アジ風は、今年から念願のインドネシアとの交流が正式にスタートします。派遣教師の赴任、Iメイト交流の開始など、新しいチャレンジが目前に迫っています。今年も多くのトピックスに焦点を当ててお伝えするように頑張りたいと思います。

さて、会報「アジアの新しい風」の42号から、編集担当としてご活躍頂いた坂巻延子さんが、今号で新聞編集を卒業され、貿易大学のIメイトコーディネーターとして新たな任に就かれることになりました。坂巻さんは幅広い視点と、繊細で緻密な表現力の両面を兼ね備え、大変ご活躍頂きました。今までの素晴らしいご貢献に心より感謝するとともに、今後のますますのご活躍を祈念いたします。また、新しい編集の仲間として伊藤莞爾さんをお迎えします。新たな視点で編集に新しい風を吹き込んでくださることを大いに期待しています。どうぞよろしくお祈りいたします。(古海 正子)